

PARTNER

PARTNER

2016.10.15 発行

No. 38

主な内容

- 思いやり支えあうパートナーに
- 第3期はだの男女共同参画プラン
- 赤ちゃんふれあい体験
- 今後のイベント情報
- 女性人材リスト登録者募集
- 相談機関のご案内

発行 はだの市民が創る男女共同社会推進会議

事務局 秦野市役所市民部市民相談人権課
秦野市桜町 1-3-2 TEL.0463-82-5128 FAX.0463-82-2001

E-mail s-soudan@city.hadano.kanagawa.jp

思いやり支えあうパートナーに！

「ありがとう」「がっなく絆

平成二十八年六月二十五日、秦野市本町公民館で、音楽活動家の松尾貴臣さんをお招きして、「男女共同社会フォーラム二〇一六」を開催しました。

「歌の力で元気を届けたい」と全国で講演活動をされている松尾さんの子育てに奮闘するお話をはじめ、命や絆をテーマにした歌は、多くの参加者の心に寄り添い、安らぎの時間を届けていただきました。

音楽との出会い

「悲しみに暮れ涙するときは
ほくがそれを乾かす風になる
生きる意味にとまどうときは
ほくが理由になるよ約束するよ」

「喜びの歌」より

自己紹介代わりの歌で始まった松尾さんのトーク&ライブ。伸びやかで力強い歌声が会場内に響き渡ります。この歌は松尾さんのオリジナルソングで結婚する二人に向けた歌。その後もギター片手に、ひとつひとつの歌詞に思いを込め、計七曲を披露しました。客席の皆さんも松尾さんの歌声に合わせて手拍子するなど、大いに盛り上がりました。

中学、高校時代は野球部に所属し、毎日練習に明け暮れていた野球少年が、父親の部屋で見つけた一本のギターをきっかけに、音楽と出会い、長崎から上京してミュージシャンを目指すことになりました。



オリジナルソングを熱唱する松尾さん

MOMOさんとの出会い

進学校に在籍していた松尾さんは、家族会議の末、国立大学に進学することを条件に上京を許されます。そして、シンガーソングライターになる夢を追いかけて、千葉大学に進学し、本格的に作詞作曲をはじめますが、様々な壁にぶつかります。松尾さんの話の中には「夢」という言葉がよく出てきます。挫折を味わっても「夢」を諦めない人、「夢」に向かって活動している人には、必ずチャンスが到来すると信じて、地元西千葉での活動を続けます。

その後、松尾さんに音楽と人生を大きく変える出会いが訪れます。MOMOさんという末期がんの女性と出会い、松尾さんは「がんは自分にも家族にも、そして誰にでも発症しうる病気なんだと。だから、一日一日を大切に、夢に向かって頑張らなくてはいけない。」と自分の生き方を見つめ直します。この出会いをきっかけに、命の大切さやがん撲滅への思いを込めた歌を多数制作し、ホスピタルライブ*を始めます。

家族やパートナーと過ごせる幸せに感謝して「ありがとう」との言葉を素直に伝えられたらいいですね。



年の半分はイクメン



尊敬する坂本龍馬の衣装を着て、ホスピタルライブ*について話す松尾さん

松尾さんは年の半分は全国各地を訪問し、ライブ活動を行っています。残りの半分は「イクメン」として積極的に育児に取り組んでいます。平成二十三年六月に娘さんが誕生。今では幼稚園の送迎をはじめ、洗濯、それから一緒にお風呂に入る時間が何よりの楽しみだとか。年の半分しか自宅にはいませんが、自宅で仕事をしている分、子どもと過ごす時間は、思いの外濃密と言えます。一緒に過ごせるときは、とことん育児を楽しみます。子どもの存在が今の松尾さんの音楽活動の励みであり、源になっています。子どもが生まれたことで、命を歌うスペシャリストになりたいという思いがより一層強くなったという松尾さん。「命が繋がった喜びや子ども達の平和な未来を願う歌を、これからも歌い続けたい。そして心をこめて歌うことで、多くの人に元気、勇氣、感動を届けたい。」それがお世話になった人への今の自分のできる唯一の恩返しだと思っていますと…



*病院や福祉施設で行うライブ活動

自然体で男女共同参画を

音楽活動家として全国の病院や福祉施設をまわり、年の半分はパワフルにライブ活動を行っている松尾さん。夢に向かって好きな音楽活動ができるのは、パートナーである奥様の協力があつてこそです。普段、奥様はお仕事をしながら育児に取り組んでいます。松尾さんも自宅でお仕事をしている時は、積極的に育児に取り組み、イクメン*を發揮しています。松尾さん夫婦は、お互いが男性だから、女性だからといった役割分担意識を持っていません。それぞれがやるべきことをやり、パートナーと協力していくといったライフスタイルが自然と身についているのです。一人ひとりがパートナーを思いやる気持ちをもつことで、社会全体の意識が大きく変わっていくはず。この機会に、もう一度我が家の男女共同参画を考えてみませんか。

参加者の声

答者 男 三十六人
女 百十三人

- ♪ 歌というものは、年齢や性別など関係なく、誰の心にも届くものだと改めて気づかされました。
- ♪ 日々の追われるような日常の中で、ホッとする時間、自分を見つめ直す機会をいただくことができました。
- ♪ とても心にしみわたる良い内容でした。
- ♪ 体験による話で、とても素直に傾聴できました。
- ♪ これからの時代、男女が助け合いながら生きていくことが素敵だと思う。
- ♪ 終了後、交流の場がほしかった。
- ♪ イクメンが増えれば、女性も働きやすくなると思う。